

【資料1 - 2】

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する  
地区意見交換会（西北）における主な意見  
<整理案>

平成29年1月25日



# 目次

1	西北地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み.....	1
2	全日制課程の学校規模・配置に関する意見.....	2
	(1) 重点校、拠点校、地域校について.....	2
	(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション.....	3
	ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合.....	3
	イ 五所川原農林高校と五所川原工業高校を統合して新設校を配置する場合..	5
	ウ 金木高校、板柳高校、鶴田高校を統合する場合.....	7
	エ 第1期実施計画では金木高校、鱈ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校を1学 級規模で配置し、第2期実施計画で統合する場合.....	9
	オ 第1期実施計画では普通科の連携校4校を統合し、更に第2期実施計画 で五所川原工業高校を統合する場合.....	11
	カ 金木高校と鱈ヶ沢高校の配置を継続し、連携校4校を統合し新設校を配 置する場合.....	13
	(3) その他の意見.....	15
3	定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見.....	16
	【参考1】委員名簿（西北地区）.....	17
	【参考2】オブザーバー名簿（西北地区）.....	18
	【参考3】地区意見交換会の開催状況（西北地区）.....	18

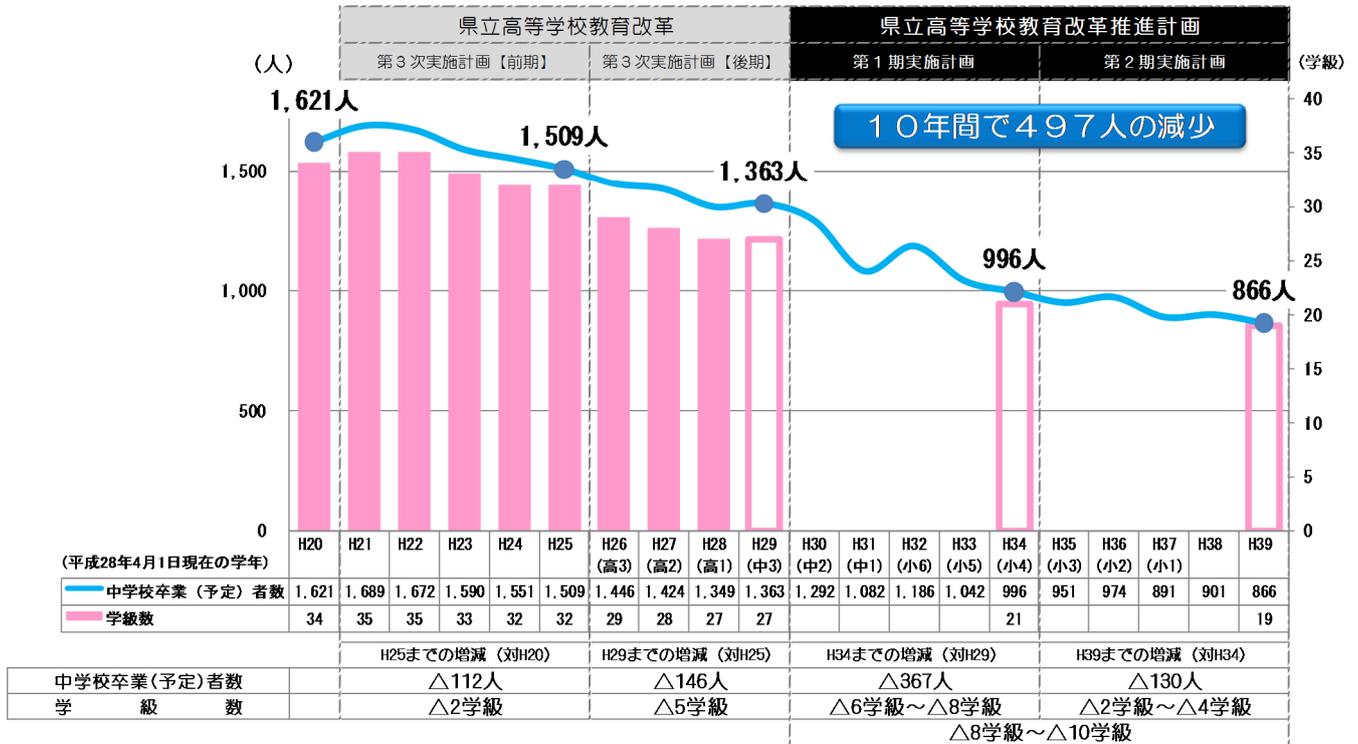
# 1 西北地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。

平成29年度以降は、平成28年5月1日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。

平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流入出等の状況を勘案し、算出。



			第1期実施計画	第2期実施計画
試案における候補校			H 2 9	H 3 9
重点校	五所川原高校	5学級	△6学級 (対H29)	△8学級 (対H29)
拠点校	五所川原農林高校	4学級		
地域校※	木造高校深浦校舎	1学級		
	中里高校	1学級		
重点校等の合計		11学級		
連携校	五所川原工業高校	4学級		
	木造高校	4学級		
	金木高校	2学級		
	鱒ヶ沢高校	2学級		
	板柳高校	2学級		
	鶴田高校	2学級		
連携校の合計		16学級		
西北地区全体の合計			27学級	21学級
				19学級

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

## 2 全日制課程の学校規模・配置に関する意見

### (1) 重点校、拠点校、地域校について

#### ① 全般

- 重点校等の試案についてはおおむね良いと考えている。(第1回)
- 重点校、拠点校の候補校は、西北地区の歴史を見ても異議はない。(第1回)
- 重点校、拠点校の配置は、伝統ある学校を存続するという趣旨に聞こえる。(第1回)
- 重点校や拠点校だけではなく、子どもの学力に配慮した学校配置を検討してほしい。(第1回)
- 年数が経てば、重点校、拠点校の学級数も減らさなければならないのではないかと。重点校、拠点校の学級数を残すために、ほかの学校が影響を受けているように感じる。(第2回)

#### ② 重点校

- 重点校については、5学級以上なければ大学進学へ対応することが難しくなるため、規模を維持することは賛成である。(第1回)
- 木造高校はこれまでの実績から重点校になっても良いと思っている。それが無理なら、重点的高校と位置付けてほしい。(第2回)
- 青森県立高等学校将来構想検討会議において、重点校の学校規模の標準は6学級としているが、五所川原高校を6学級規模にすると周囲の高校への影響が大きいことから、5学級規模でも柔軟に対応するよう西北地区部会でもお願いしたものである。(第2回)
- 全ての学校を配置したいという思いはあるが、五所川原高校を4学級規模、3学級規模にしてしまうと大学に進学したいという子どもたちの将来の夢を閉ざしてしまうことになる。(第2回)

#### ③ 拠点校

- 拠点校の候補校である五所川原農林高校は、例年志願する生徒が多い学校であり、その取組に期待している。(第1回)
- 五所川原工業高校の在り方も地域にとっては大事である。五所川原工業高校も拠点校として存続してほしいというのが本音である。(第2回)

#### ④ 地域校

- 地域校について、科目の開設状況が厳しいということは分かるが、ICTを活用した取組により、学校として維持できるのではないかと。(第1回)
- 地域校という枠組みを作ってくれたことはありがたい。中里中学校から金木高校に進学する生徒が十数名いるが、その生徒たちが中里高校に入学するように対策を講じるのも、市町村の仕事ではないかと考える。(第1回)
- 通学手段を考えながら、統合による2学級規模の地域校が必要である。(第1回 意見等記入票)
- 鱈ヶ沢高校が統合となり、深浦校舎も募集停止となると、深浦町の子どもはどこに行けば良いのか。できるだけ深浦校舎を存続してほしい。(第2回)
- 地域校について、最終的には組合立の学校とすることや通学支援をすることも考えなければならない。(第2回)

(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29	H34	H39	H39
重点校	五所川原 5学級		五所川原 5学級		五所川原 5学級
	五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級
拠点校	五所川原工業 4学級	△1学級 →	五所川原工業 3学級	△1学級 →	五所川原工業 2学級
	木造 4学級	△1学級 →	木造 3学級	△1学級 →	木造 2学級
	金木 2学級	△1学級 →	金木 1学級		金木 1学級
	鱒ヶ沢 2学級	△1学級 →	鱒ヶ沢 1学級		鱒ヶ沢 1学級
	板柳 2学級	△1学級 →	板柳 1学級		板柳 1学級
	鶴田 2学級	△1学級 →	鶴田 1学級		鶴田 1学級
	小計	25学級	△6学級 →	19学級	△2学級 →
連携校	深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級
	中里 1学級		中里 1学級		中里 1学級
地域校					
合計	27学級	△6学級 →	21学級	△2学級 →	19学級

### ① シミュレーションの基となった意見

- 生徒数が減少し、学校運営も厳しくなると思うが、ぎりぎりまで現在の学校数を維持してほしい。（第1回意見等記入票）

### ② 期待される効果等

- 子どもの学力向上や高校教育を受ける機会に配慮した学校配置を望みたい。（第1回）
- 地域活性化という視点から、高校は地域になければならない存在である。第1期実施計画期間中に高校がなくなるのであれば、あまりに急すぎると感じる。可能な限り、第1期実施計画期間中は、統合しないでほしい。（第2回）
- 高校進学を希望する生徒に対して、高校の選択肢が多くあり、高校教育を受ける機会を確保することができる。（第2回意見等記入票）
- 学力的に重点校や拠点校に進学できない生徒への選択肢も確保できる。（第2回意見等記入票）

### ③ 更に検討を要する課題等

- 学校規模による開設科目状況を見て、自分の子どもが高校に進学する際には大きな高校に入学させたいと感じた。（第1回）
- 学校規模の大きい学校がないので、大学進学やスポーツを頑張りたいという希望により、他地区の高校に進学する生徒もいる。（第1回）
- 普通科の連携校4校（金木高校、鱒ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校）は、現在、全て2学級募集だが、1学級募集にして学校を残すのが現実的である。ただ、1学級募集とすると部活動数や開設科目数が少ないため、高校としての魅力が薄れ、多くの中学生が私立高校を志望する可能性がある。（第1回）
- 全ての学校を配置した場合、学校の小規模化が更に進むことになる。西北地区は「北五」地域（五所川原市及び北津軽郡）と「西つがる」地域（つがる市及び西津軽郡）に分かれており、「西つがる」地域にも4学級規模の高校を配置してほしい。（第2回）
- 1学級規模の高校では、生徒が希望する教科・科目や部活動に制約が出てくる。満足な教育ができなければ、子どもにとって魅力のある学校になることは難しい。（第2回）
- 五所川原工業高校が2学級になった場合、工業高校として成り立っていくのか心配である。（第2回）
- 連携校が1学級規模となることにより、高校教育としての質の確保・向上、あるいは部活動の運営等ができるのか。（第2回意見等記入票）
- 1学級規模の高校で、大学進学、就職等の幅広い進路指導や科目の開設など、生徒のニーズに応える魅力ある教育活動ができるのか。（第2回意見等記入票）
- 1学級規模になっても充実した教育を行えるよう、教員を増やせば良い。（第2回）

イ 五所川原農林高校と五所川原工業高校を統合して新設校を配置する場合

- 新設校は、農業科の拠点校として農業科を4学級規模とする。

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画				
		第1期実施計画		第2期実施計画		
		H29	H34	H39	H39	
重点校	五所川原 5学級		五所川原 5学級		五所川原 5学級	
拠点校	五所川原農林 4学級		新設校 農業科4学級		新設校 農業科4学級	
連携校	五所川原工業 4学級		工業科○学級 (4+○)学級		工業科○学級 (4+○)学級	
	木造 4学級		木造 ○学級		木造 ○学級	
	鱒ヶ沢 2学級	△6学級 →	鱒ヶ沢 ○学級	△2学級 →	鱒ヶ沢 ○学級	
	金木 2学級		金木 ○学級		金木 ○学級	
	板柳 2学級		板柳 ○学級		板柳 ○学級	
	鶴田 2学級		鶴田 ○学級		鶴田 ○学級	
	小計	25学級	△6学級 →	19学級	△2学級 →	17学級
	地域校	深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級
中里 1学級			中里 1学級		中里 1学級	
合計	27学級	△6学級 →	21学級	△2学級 →	19学級	

### ① シミュレーションの基となった意見

- 専門的学習を総合的に提供し、質の高い専門学科の学校とするため、農業科と工業科の高校を統合してはどうか。（第1回意見等記入票）

### ② 期待される効果等

- 五所川原農林高校と五所川原工業高校の統合による新設校は、職業教育の充実に向けた意欲的な取組であり評価できる。（第2回意見等記入票）

### ③ 更に検討を要する課題等

- 五所川原工業高校は4学級規模で良い教育活動をしている。統合は考えられない。（第2回）
- 五所川原農林高校と五所川原工業高校の統合案には反対である。なぜなら、この統合案ではまだ学校規模が小さいからである。もっと多くの学校を統合し、スケールメリットを生かせる産業高校があれば良い。（第2回）
- 五所川原工業高校は、現在でも4学級規模を確保できているのだから、工業関係の職業教育を主とする専門学科として残しておくべきではないか。（第2回意見等記入票）
- 木造高校以外の連携校が1学級規模となり、高校教育の質の確保や向上等が図られるのか。（第2回意見等記入票）

### ④ その他

- 専門高校を産業高校という形で一括りにして、農業、工業、商業、福祉、医療などの、これから必要となる人財を輩出するため、産業高校を新設することは考えられないか。（第2回）

ウ 金木高校、板柳高校、鶴田高校を統合する場合

○ 新設校は、「学校規模の標準」を踏まえ、4学級規模と仮定する。

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		H29	第1期実施計画		第2期実施計画
				H34	
重点校	五所川原 5学級		五所川原 5学級		五所川原 5学級
拠点校	五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級
連携校	金木 2学級	△2学級 →	新設校 4学級	△2学級 →	新設校 ○学級
	板柳 2学級				
	鶴田 2学級				
	木造 4学級	△4学級 →	木造 ○学級	△2学級 →	木造 ○学級
	鱒ヶ沢 2学級		鱒ヶ沢 ○学級		鱒ヶ沢 ○学級
	五所川原工業 4学級		五所川原工業 ○学級		五所川原工業 ○学級
小計	25学級	△6学級 →	19学級	△2学級 →	17学級
地域校	深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級
	中里 1学級		中里 1学級		中里 1学級
合計	27学級	△6学級 →	21学級	△2学級 →	19学級

### ① シミュレーションの基となった意見

- 金木高校、板柳高校、鶴田高校を統合し、新しい学校を作り、通学バスの補助金等も含め検討してほしい。また、統合校は、西北地域の中心に位置する鶴田町に配置してほしい。（第1回）

### ② 期待される効果等

- 基本的には、すべての子どもが希望する高校に入学してほしい。地域に高校がなくなるのは忍びないが、ある程度の統合はやむを得ない。交通機関の整備等もあるのであれば、統合も考えられる。（第2回）
- 学校の地域性は重要であるが、子どもたちの将来を考えると、高校にはある程度の規模が必要だと思う。（第2回）
- 金木高校、板柳高校、鶴田高校（北五地域）の3校の統合により、新設校が4学級規模となり、高校教育としての質の確保・向上が図られると思う。（第2回意見等記入票）

### ③ 更に検討を要する課題等

- 地域校が存続する前提でないのであれば、中泊地域の子どもはかなり遠くまで通うことになり、高校に通学できない子どもが生じてしまう。（第2回）
- 3校の統合により、通学等の負担が増える保護者も出てくる。新設校の設置場所や通学バス等の運行など、通学（時間や経費）に配慮が必要である。（第2回意見等記入票）
- 鱒ヶ沢高校が1学級規模になる可能性があり、高校教育の質の確保や向上等が図られるのか心配である。（第2回意見等記入票）

### ④ その他

- 北五地域（金木高校、板柳高校、鶴田高校）で統合して新設校を配置するのであれば、西つがる地域（木造高校、鱒ヶ沢高校）でも新設校を配置することも考えられるのではないかと。（第2回意見等記入票）

エ 第1期実施計画では金木高校、鱒ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校を1学級規模で配置し、第2期実施計画で統合する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
重点校 拠点校 連携校	五所川原 5学級		五所川原 5学級		五所川原 5学級
	五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級
	五所川原工業 4学級	△1学級 →	五所川原工業 3学級	△1学級 →	五所川原工業 2学級
	木造 4学級	△1学級 →	木造 3学級	△1学級 →	木造 2学級
	金木 2学級	△1学級 →	金木 1学級		新設校 4学級
	鱒ヶ沢 2学級	△1学級 →	鱒ヶ沢 1学級		
	板柳 2学級	△1学級 →	板柳 1学級		
	鶴田 2学級	△1学級 →	鶴田 1学級		
小計	25学級	△6学級 →	19学級	△2学級 →	17学級
地域校	深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級
	中里 1学級		中里 1学級		中里 1学級
合計	27学級	△6学級 →	21学級	△2学級 →	19学級

### ① シミュレーションの基となった意見

- 現在2学級規模の普通科の連携校4校について、第1期実施計画期間中は1学級募集で対応し、第2期実施計画期間中に大きく統合して4学級規模の学校を新設してはどうか。(第1回)

### ② 期待される効果等

- 

### ③ 更に検討を要する課題等

- 1学級規模の高校において、子どもの希望をかなえるのは難しいのではないかと。第1期実施計画期間中に統合した方がよい。(第2回)
- 連携校4校を新設して統合となると、校舎を新しく建てるのか、それとも既存の校舎を使うのか。校舎の場所についても考えてもらいたい。(第2回)
- 早く統合して、4学級規模で充実した学習をした方がよい。(第2回)
- 連携校4校を統合して4学級規模の学校を新設し、その一方で木造高校を3学級規模に学級減すると、不合格になる生徒が多く出る上に、教育活動に支障が生じることになり矛盾を感じる。(第2回)
- 1学級規模となる高校もあるものの、そのまま存続になるので良いと思うが、1学級規模となる高校の高校教育の質の確保や向上等ができるかということと、第2期実施計画での新設校への通学(時間や経費)が大変な地域が出てくるのではないかと。ということが課題である。(第2回意見等記入票)

オ 第1期実施計画では普通科の連携校4校を統合し、更に第2期実施計画で五所川原工業高校を統合する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
重点校	五所川原 5学級		五所川原 5学級		五所川原 5学級
拠点校	五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級
連携校	木造 4学級		木造 4学級		木造 4学級
	五所川原工業 4学級	△1学級 →	五所川原工業 3学級		新設校B 普通科2学級 工業科2学級 4学級
	金木 2学級	△5学級 →	新設校A 普通科3学級 3学級	△2学級 →	
	鱒ヶ沢 2学級				
	板柳 2学級				
鶴田 2学級					
小計	25学級	△6学級 →	19学級	△2学級 →	17学級
地域校	深浦校舎 1学級 中里 1学級		深浦校舎 1学級 中里 1学級		深浦校舎 1学級 中里 1学級
合計	27学級	△6学級 →	21学級	△2学級 →	19学級

① シミュレーションの基となった意見

○ 第1期実施計画では、連携校4校（金木高校、鱈ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校）を統合して3学級規模の新設校とする。

第2期実施計画では、新設校と五所川原工業高校を統合して、普通科2学級、工業科2学級の4学級規模の学校とする。（第2回）

② 期待される効果等

○ 希望者の多い木造高校を4学級規模で配置できる。（第2回）

③ 更に検討を要する課題等

○ 統合の前提として、深浦校舎と中里高校が存続するということがある。（第2回）

カ 金木高校と鱒ヶ沢高校の配置を継続し、連携校4校を統合し新設校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
重点校	五所川原 5学級		五所川原 5学級		五所川原 5学級
	五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級		五所川原農林 4学級
拠点校	金木 2学級	△1学級 →	金木 1学級		金木 1学級
	鱒ヶ沢 2学級	△1学級 →	鱒ヶ沢 1学級		鱒ヶ沢 1学級
	木造 4学級		新設校 普通科○学級 総合学科○学級 工業科○学級 8学級		新設校 普通科○学級 総合学科○学級 工業科○学級 6学級
	板柳 2学級	△4学級 →		△2学級 →	
連携校	鶴田 2学級				
	五所川原工業 4学級				
小計	25学級	△6学級 →	19学級	△2学級 →	17学級
地域校	深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級		深浦校舎 1学級
	中里 1学級		中里 1学級		中里 1学級
合計	27学級	△6学級 →	21学級	△2学級 →	19学級

① シミュレーションの基となった意見

- 金木高校、鱒ヶ沢高校は1学級規模でも配置してほしい。(第2回)

② 期待される効果等

- 地域校が存続する前提でないのであれば、西海岸の鱒ヶ沢高校や、津軽半島北部の金木高校の存続など、生徒が通学できる範囲に高校を配置することを考える必要がある。(第2回)

③ 更に検討を要する課題等

- 

④ その他

- このシミュレーションのほか、
- ・ 木造高校、板柳高校、鶴田高校の統合による新設校
  - ・ 板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校の統合による新設校
  - ・ 木造高校、五所川原工業高校の統合による新設校
- が想定される。(第2回)

### (3) その他の意見

#### (具体的な学校規模・配置について)

- 鱒ヶ沢町は、地理的に広域な地域であり、鱒ヶ沢高校がなくなると通学が困難になる子どもが多数発生することを懸念している。(第1回)
- 板柳高校は隣接する市町村からも通学しており、ほぼ100%の定員充足率でもあるので、子どもたちの選択肢を狭めないよう配慮してほしい。(第1回)
- 小泊地域の子どもたちは、中里高校がなくなると朝5時台に家を出なければ五所川原市内の高校まで通学できない。市浦地域や小泊地域出身で、勉強やスポーツが得意ではない子どもはどこの高校に進学するのかという気持ちでいる。(第1回)
- 木造高校と金木高校が統合となった場合、学力面の差が心配である。(第1回)
- 東青地区や中南地区の学校を減らしてでも、西北地区の学校を残して、東青地区や中南地区の子どもを西北地区の学校に進学させるという考え方をしても良いのではないか。(第1回)
- 西北地区の小学校は30年前と比較して約3分の1まで減少しており、高校の統廃合もやむを得ないと考える。一方、子どもたちの選択肢が減ることや、通学費等の負担が増加することにより、高校進学率の低下につながることを懸念される。(第1回)
- 五所川原高校や五所川原農林高校という、核となる学校は配置すべきであるが、仮に鱒ヶ沢高校がなくなった場合、木造高校に入学できない生徒は、結局私立高校に進学する。第1期実施計画の5年間は、1学級規模で鱒ヶ沢高校を配置していただきたい。(第2回)
- 深浦町の児童生徒数を考えると、深浦校舎はいずれなくなるかもしれない。最低でも西海岸に1学級規模の高校を配置してほしい。(第2回)

#### (学科等について)

- スポーツや福祉等に重点的に取り組む学校や看護師等の後継者育成を考えた学校を期待している。(第1回)
- 中学生それぞれの志に応じた主体的な学校選択が促進されるよう、進学や就職など幅広い進路選択に的確かつ柔軟に対応する総合学科の中核となる高校を設置する。(第1回意見等記入票)

#### (生徒の通学について)

- 生徒数が少ないので募集停止ということは仕方がないことだと思うが、通学できる学校がなくなれば、子どもたちはどうすれば良いのかと心配になる。(第1回)
- 地域校が閉校になった場合は、交通手段などの通学環境に配慮してほしい。(第1回)

#### (その他)

- 高校への進学を希望している全ての中学生に対して、高校教育を受ける機会を確保するような学校配置を考えなくてはならない。特に、重点校・拠点校に進学できない子どもの受け皿を確保するためにも、連携校の配置は慎重に考えなければならない。(第1回)
- 中里高校は、地元の中学生在が入学すれば1学級を満たすのに、実際は20人を切っている。その理由を考えていく必要がある。(第1回)
- 地元の間人が、自分たちの子や孫が通える学校を残そうと動き、協力していければ良いと思う。(第1回)
- 高校生活を通して生徒同士が力を合わせて伸びていくという部分があることも考慮しなければいけない。あまりにも人数が少なかったり、メンバーが固定化するといろいろな危惧される部分もある。(第2回)
- 最近、西北地区で私立高校に進む子が増えている。この地域の魅力が無くなると、弘前市内や青森市内の学校へ生徒が進学してしまう。(第2回)
- 連携校に魅力がなければ、私立高校に進学する傾向にならないか心配である。生徒が今よりも魅力のある学校になるとイメージできれば、これまで連携校に興味を示さなかった子どもたちが連携校に進学する可能性がある。(第2回)
- 本県は財政的に厳しいことから、学級数が少なくなっても県で教員を配置できるかが心配である。(第2回)

### 3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 高校の中途退学者数はどの程度か。中途退学した生徒の多くが北斗高校を志願している。3部制の高校が各地区にあれば良い。(第1回)
- 定時制課程と通信制課程の両機能を有する学校を県内6地区に均等に配置する必要があると考える。(第1回意見等記入票)
- 現在、働きながら学んでいる生徒はほとんどいないため、全日制課程の高校で様々な事情を抱える生徒に十分対応できるようにし、役割を終えた学校は閉校しても良いのではないか。(第1回意見等記入票)

【参考1】委員名簿（西北地区）

（敬称略）

区分	所属等	委員名	備考
市町村教育委員会	五所川原市教育委員会 教育長	長尾 孝紀	
	つがる市教育委員会 教育長	葛西 岷輔	
	鱒ヶ沢町教育委員会 教育長	神 豊	
	深浦町教育委員会 教育長	坂本 寛	
	板柳町教育委員会 教育長	木村 研二	
	鶴田町教育委員会 教育長	中野 雄臣	
	中泊町教育委員会 教育長	加藤 久宜	
PTA	つがる市連合PTA 会長 （つがる市立車力中学校PTA 会長）	秋田谷 建幸	
	北五連合PTA 会長 （中泊町立薄市小学校PTA 会長）	今本 宏樹	
	西津軽郡連合PTA 監事 （深浦町立深浦小学校PTA 会長）	飯島 正和	
	青森県高等学校PTA連合会 西北地区協議会 会長 （県立五所川原工業高等学校PTA 会長）	野上 淳一	
産業界	五所川原商工会議所青年部 監事	安田 博	
小中学校長会	西つがる小学校長会 会長 （つがる市立富苑小学校 校長）	長内 一	
	北五小学校長会 会長 （五所川原市立金木小学校 校長）	野呂 良悦	
	西北中学校長会 （つがる市立車力中学校 校長）	木村 文紀	
	元県立五所川原高等学校 校長	佐井 憲男	進行役

【参考2】オブザーバー名簿（西北地区）

（敬称略）

所 属 等	オブザーバー名	備 考
県立五所川原高等学校 校長	野 村 卓 司	
県立金木高等学校 校長	藤 澤 重 信	
県立木造高等学校 校長	吉 田 健	
県立鱒ヶ沢高等学校 校長	百 川 弘 通	
県立板柳高等学校 校長	米 持 聡	
県立鶴田高等学校 校長	前 田 濟	
県立中里高等学校 校長	笹 森 昭 好	
県立五所川原農林高等学校 校長	山 口 章	
県立五所川原工業高等学校 校長	三 上 浩	
県立森田養護学校 校長	成 田 安 男	

【参考3】地区意見交換会の開催状況（西北地区）

回	年月日	内容
1	平成28年 9月12日	○学校規模・配置に関する意見発表
2	平成28年11月22日	○第1回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換
3	平成29年 1月25日	○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換